

授業科目名	協同学習論	教員名	劉 一杰	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	選択
					小学校教諭	選択
					幼稚園教諭	選択
					保育士	選択
科目番号	SID319	配当年次	3年後期		こども音楽療育士	
授業形態	講義				情報処理士	
単位数	2単位					
科目						
施行規則に定める科目区分						
一般目標	この授業のテーマは、近年注目されている学習理論である協同学習についての考え方を学ぶことである。また、グループ活動やディスカッションを通じ、実際の教育現場で活かせる協同学習の技法やプランが作成できるように、体験的な学びができることを目指す。					
到達目標	(1) 協同学習の基本的な考え方と協同学習が重視されるようになった背景を理解する。 (2) 協同学習の技法を実際にロールプレイすることで体験的に理解する。 (3) 協同学習の技法を実際の教育現場で使用するときの留意点について理解する。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「4. 教育に関連する事柄について、継続的・主体的に学ぶ学習能力を身につけている。」「5. 教育実践力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業の概要	協同学習は、グループダイナミクス、認知心理学等の実証科学を基盤とした近年特に注目されている学習指導法の理論である。この授業では、まず学習指導要領を基に、どうして近年、協同学習が重視されるようになったかについての背景と協同学習の基本的な考え方を学び、その後に実際の協同学習の技法についてロールプレイを用いて体験することで、教育現場で実践的に使用する技術を身につける。授業形態は講義であるが、教員からの一方向の講義のみに終始するのではなく、その多くを協同学習によるアクティブ・ラーニングで学習する。					
履修条件・注意事項	なし					
授業計画	<p>第1回：学習指導改善の視点・教育観の転換から、協同学習の必要性について考える（目標(1)）</p> <p>第2回：協同学習の理解① グループ学習と協同学習の違いについて（目標(1)）</p> <p>第3回：協同学習の理解② 協同学習とは何か、その効果について（目標(1)）</p> <p>第4回：様々な協同学習①グループに分かれて日本及び海外の協同学習について調べてくる（目標(1)(2)）</p> <p>第5回：様々な協同学習② 習熟度別指導及び少人数授業と協同学習について知る（目標(2)）</p> <p>第6回：様々な協同学習③ 道徳、人権教育と協同学習について知る（目標(2)）</p> <p>第7回：様々な協同学習④ 教科外、教室外の協同及び教師の協同について知る（目標(2)）</p> <p>第8回：協同学習の基礎としての傾聴とミラーリングをラウンドロビン、シンク=ペア=シェアという技法からそれらを実際に体験させる（目標(2)）</p> <p>第9回：外部講師（現場経験のある、協同学習の研究を行っている先生）の話を聞き、実際現場でされている協同学習の実践などについて知り、考えたことをレポートにまとめる（目標(1)(3)）</p> <p>第10回：学び合いを促す51の工夫① 導入の工夫（目標(2)(3)）</p> <p>第11回：学び合いを促す51の工夫② 展開の工夫（目標(2)(3)）</p> <p>第12回：学び合いを促す51の工夫③ グループ活用の工夫（目標(2)(3)）</p> <p>第13回：学び合いを促す51の工夫④ 学習集団作り（目標(2)(3)）</p> <p>第14回：学び合いを促す51の工夫⑤ まとめ工夫（目標(2)(3)）</p> <p>第15回：まとめと最終プレゼンテーション 授業から学んだことを踏まえて、協同学習の重要性と実践方法についてグループでプレゼンテーションを行う（目標(2)(3)）</p>					
授業外学修時間の確保について	(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。) 事前学習：毎回次回の予告を行い、次回までの課題を提示する。 事後学習：学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようにするよう努めることとする。 授業の冒頭で、前回の授業内容についての説明を求めることがある。					
学生に対する評価	授業中の取り組みの様子、課題として提出するレポート等の内容、学期末試験の結果による総合評価を行う。評価の割合は協同学習に取り組む態度30%、レポート30%、最終まとめとプレゼンテーション40%とする。 なお、課題等のフィードバックについては、授業中に口頭で行う。					
テキスト	杉江修治 著 「協同学習入門—基本の理解と51の工夫—」 ナカニシヤ出版					
参考書・参考資料等	参考書： ・ジョンソン, D. W. ・ジョンソン, R. T ・ホルベック, E. J. 著 石田裕久・梅原巳代子 訳					

	「学習の輪—学び合いの協同学習入門—」 二瓶社 ・参考資料等：適宜提示する。
担当者からの メッセージ	授業への主体的な参加を期待します。
オフィスアワー	質問等は毎回の講義の後に受け付ける。 それ以外の時間は、事前にメールにてアポをとること。
備考	なし